

条件づけの理論と応用

科目ナンバリング EXP-204
選択 2単位

望月 要

1. 授業の概要(ねらい)

『学習心理学I』に引続き、主に実験行動分析学の枠組から、我々ヒトを含む動物の行動変容の法則に関して、特に重要なテーマを取り上げ、その基本概念、古典的な実験の意義、重要な現象について講義する。

2. 授業の到達目標

ヒトを含む動物の行動変容に関する重要なテーマについて、科学的な原理に基づいて記述し、その代表的実験例を説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

学期末試験の成績のみで成績を決める。試験には所定の持ち込み用紙だけの持ち込みを認め、持ち込み用紙の内容30点、事前予告問題20点を含め、100点満点で評価する。配布資料、参考書類の持ち込みは認めない。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストは使用しない。以下の書籍は理解を深める上で有益であろう。

参考文献

小野浩一 『行動の基礎』(2016) 培風館
実森正子・中島定彦 『学習の心理:行動のメカニズムを探る』(2000) サイエンス社
レイノルズ G. S. 浅野俊夫(訳) 『オペラント心理学入門』(1978) サイエンス社
佐藤方哉 『行動理論への招待』(1976) 大修館書店
小川隆(監修) 『行動心理ハンドブック』(1989) 培風館

5. 準備学修の内容

講義を聞く前に、毎回のテーマについて予習し、基本的な概念と専門用語は一通り知っておくこと。授業後は、毎回ノートを整理し、参考書等を参照しつつ講義内容を十分に理解すること。

6. その他履修上の注意事項

春学期の『学習心理学I』と継続して履修することが望ましい。講義を十分に理解するには予習ないし復習は不可欠である。尚、授業中の私語には厳しいペナルティを課す。

7. 授業内容

- 【第1回】 授業方針の説明,関連書籍・文献の紹介
- 【第2回】 オペラント随伴性と強化スケジュール
- 【第3回】 複雑な強化スケジュール
- 【第4回】 選択行動と定量的行動分析(1)
- 【第5回】 選択行動と定量的行動分析(2)
- 【第6回】 回避と罰の随伴性
- 【第7回】 “衝動性”とセルフ・コミットメント
- 【第8回】 複雑な刺激性制御
- 【第9回】 刺激性制御と概念行動
- 【第10回】 条件性弁別と高次オペラントクラス
- 【第11回】 等価関係
- 【第12回】 機能と随伴性による言語行動の分類
- 【第13回】 言語行動としての意識:私的出来事のタクト
- 【第14回】 言行一致:非言語行動と言語行動の相互関係
- 【第15回】 まとめ